



巻頭言

消化器センター

教授 / 伊藤 敬義 いとう たかよし



COVID-19の蔓延、東京オリンピック開催など激動の令和3年も師走を迎えました。今秋になってCOVID-19ワクチン接種率の上昇に伴い東京都の新規感染者数は激減し、社会も落ち着きを取り戻しつつあります。もちろん世界的には感染が制御された状態とはいえ、数万人単位で新規患者が報告されている国もあります。今後海外からの入国制限が緩和され、観光客の受け入れが始まれば再度小規模なパンデミック発生が予想されます。With コロナ時代は数年常態化することでしょう。

当院の消化器センターも昨年までCOVID-19の影響で人間ドックなどの受診者数の減少、それに伴う消化器系検査（内視鏡検査、腹部超音波検査、CT検査など）受診者が減少しました。ただ慢性の消化器疾患、特にウイルス肝炎患者は定期的検査が必要で、現在はCOVID-19沈静化に伴い消化器疾患の紹介患者、また入院患者も増加してきています。

現在、当消化器センターで取り組んでいるテーマの一つに**低侵襲医療**があります。これは井上晴洋センター長が2014年の開院時より推し進めてきたものです。食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術(POEM)や消化器癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離除/粘膜切除術(ESD/EMR)などがその代表です。私の専門である肝臓疾患領域でも最近では低侵襲医療が進んでいます。肝臓癌に対する低侵襲のラジオ波焼灼療法は既に標準治療となっています。また成因不明な肝疾患診断の基本はこれまで肝生検による肝組織診断でした。特に現代病ともいえる非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD/NASH)の診断や病期分類には組織診断が必須でした。**当院では昨年最新鋭の3テスラMRIが導入され、肝臓全体の脂肪化率やNAFLDの増悪因子にもなる鉄過剰の評価が肝生検なしで可能となりました。またこの夏には肝硬度測定や肝脂肪化測定可能な高性能の腹部超音波検査機器を導入し、肝疾患患者では通常の腹部超音波検査時に同時測定可能となりました。**病因診断には肝組織検査は重要ですが、補助診断かつ診断確定後治療効果の経時的評価にはこの2つの診断機器を活用していきます。

最後に11月1日から消化器内科の教授(員外)を拝命しました。2014年の当院開院時に消化器センターは井上センター長(消化器外科)と松川教授(消化器内科)の二人教授体制で始まりました。松川教授退任後に消化器内科の診療科長を引き継ぎ、そして今回教授を拝命したことは身の引き締まる思いです。今後も患者本位の医療を追求して行きたいと思っております。



第92号のトピックス

- 巻頭言(消化器センター)
- 術前外来のご紹介
- がん患者さん・ご家族へ
がん相談窓口をご利用ください
- Web講演会
- 公開講座のご案内
- 年末年始休診のお知らせ
- クリスマスツリーを点灯しました
- ご意見ご要望
- 編集後記

術前外来のご紹介



術前外来の様子

はしもと しまこ
手術室看護師 / 橋本 志麻子

皆さんは「術前外来」という言葉を聞いたことがありますか？手術室看護師というと手術室で初めて対面するイメージをどなたもお持ちではないでしょうか？手術中だけじゃない手術室看護師が患者さんとじっくり関わりを持てる時間を作りました。それが「術前外来」です。

私たち手術室看護師は今までも手術の前に患者さんの病室へうかがい、お話をさせていただいておりましたが、入院から手術までの間は患者さんもあわだしく過ごされることが多い状況でした。そのような中で私たち手術室看護師は、手術に対する患者さんの思いや不安を少しでも受け止めて、何かのお役に立ちたいという思いを長年抱えてきました。

近年は患者さんが入院される前から、退院にむけての準備や入退院に関する不安に対応していくことが重要だと言われています。手術においても患者さんが入院される前から手術室看護師が患者さんにお会いして、直接お話しし表情をうかがいながら会話をすることで、手術に対する思いやもともとのお人柄、キーパーソンなど幅広く患者さんを知ることができます。また、痛みの感じ方や表現の仕方、体の不自由な部分や変形している箇所も知ることができるため、手術に対する備えがしやすく、病棟や集中治療室の看護師とも情報共有・連携し、患者さんには安全・安心して手術に臨んでいただくことが可能となります。

患者さんからよくある質問として、手術そのものだけでなく、手術後に待っている療養生活についてなども含めパンフレットを使用しわかりやすく説明をさせていただいております。現在は手術後に集中治療室に入られる患者さんを対象に「術前外来」を行っておりますが、今後はすべての患者さんへ実施できるよう検討しています。

術前外来スタッフ



※写真撮影のために、マスク、アイガードを外しています

がん患者さん・ご家族へ がん相談窓口をご利用ください



わたしたちがご相談に応じます

※写真撮影のために、マスク、アイガードを外しています

おいぬま さとこ
がん専門相談員・緩和ケア認定看護師 / 笈沼 智子

がんは、現在では2人にひとりが患う病気になりました。そして、治療を受けながら日常生活を送るという長い期間『共存する病気』になりました。当院でもがん治療や経過観察中に、仕事・家事・家族の介護・育児などの日常生活や社会活動を送っているがん患者さんが多くいらっしゃいます。

そんな患者さんやご家族に対して、当院では2019年から総合サポートセンター内に「がん相談」窓口を開設しました。がんに関するさまざまなご相談に対して、専門的な看護師ががんの治療選択や副作用対策、療養先の選択・就労に関することなどの「相談」や、不安や気持ちを聞いてほしいという「聴き役」を行っています。そして、年々相談件数が増加しています。

現在は、「月曜日午後」を中心に行っていますが、診察や治療のタイミングに合わせて臨機応変に対応します。生活のことや、治療や療養に伴う疑問や不安を誰かに話すことには抵抗があるかもしれません。相談した内容が他者に知られてしまうことありませんので、「こんなこと相談しても大丈夫かな？」と心配せずに、お気軽に総合相談センターへお立ち寄りください。

＊お問い合わせ：総合サポートセンター
電話番号 03-6204-6000 (代)



Pick up

Web 講演会

昭和大学江東豊洲病院の各診療科の取り組みを動画で公開しています。
ご興味のある方は、お手持ちの携帯でQRコードを読み取りください。



<今月のテーマ>

「中耳炎について」「正しい鼻出血の止め方」

耳鼻咽喉科 講師 / 藤居 直和



※この動画は医療者向けで作成されているため、医療専門用語や、傷や部位など医療処置が動画で流れるものがあります。

公開講座のご案内

昭和大学江東豊洲病院では、住民の皆さんにわかりやすく医療の知識を深めていただくために、公開講座を開催しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、ホームページ上で動画を公開し、WEB開催の形式になりました。



第13回公開講座 (WEB開催)

■テーマ

「今気になる医療トピックス」

■掲載期間

令和3年10月22日(金)～12月31日(金)

■URL

<https://www.showa-u.ac.jp/SHKT/event/nid00002505.html>

※上記のURL または QR コードから動画をご視聴ください。



年末年始休診のお知らせ

2021年12月29日(水)から2022年1月3日(月)は、年末年始のため休診となります。あらかじめご了承ください。

Report


クリスマスツリーを点灯しました

令和3年11月11日から12月25日の間、1階エスカレーター下にクリスマスツリーを設置します。

ご来院の際はぜひ、クリスマスツリーのイルミネーションをお楽しみください。



ご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答・改善策等
<p>コロナの感染対策予防として、玄関のみに消毒液を置くのではなく、外来の各検査室の入り口にも設置して欲しいです。</p> <p>いろんな外来・入院患者が使用する場なのでとても気になります。</p>	<p>この度は貴重なご意見ありがとうございます。外来エリアには、各受付カウンター・採血室横・エレベーターホールなどに自動手指消毒器を設置しておりますので、よろしければご利用ください。</p> <p>その他、必要に応じて自動手指消毒器の設置を検討させていただきますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p>回答部署：クオリティマネジメント課</p>
<p>8月3日～7日食道アカラシアの手術のため入院しました。新人ナースさん、先輩ナースさんの関係もとても良さそうで、とても良い雰囲気です。快適な入院生活を送ることができました。また術後に想像以上に痛みが続き（甘くみていました）、たくさんご迷惑をおかけしましたが、みなさんととても親切で安心して過ごす事ができました。本当に感謝しています。ありがとうございました。</p>	<p>お褒めのお言葉をいただきましてありがとうございます。コロナ禍で面会禁止にさせていただいておりますので、さぞ心細い入院生活であったかと思えます。術後は、痛みや吐き気など症状が出現し、しばらくは辛い思いをされたかと思いますが、順調に回復できて良かったです。手術前後の不安な気持ちに寄り添い、患者さんが安心して療養生活を送ることができたことをとても嬉しく思います。</p> <p>今回いただきましたような患者さんからの褒めのお言葉は私達の励みとなりますのでスタッフ全員で共有し頑張ります。今後も患者さんに寄り添った看護ケアを提供できるようスタッフ一同精進してまいります。</p> <p>回答部署：看護部</p>
<p>看護師さん達はどなたも親切で気が利いて安心させてくれる明るい方ばかりです。手術をした夜一睡もできなかった時、励ましてくれた看護師さんのことは忘れられません。本当にお世話になりました。</p>	

編集後記

師走の候となり、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

年末が師走と言われるようになった主な理由は“お坊さんが忙しい月だから”。1年が残り少ないと感じる師走だからこそ、お坊さんに限らず、すべての人にとって、あっという間に時が過ぎてしまふとなおさら感じてしまうのでしょうか。この1年を振り返ると、去年に引き続き、新型コロナウイルス感染症関連の出来事が多くを占め、新たな生活様式が求められました。妊婦さんを診させていただくことが多い私としても、新しい生活様式に合わせ、妊婦さんへの食事・運動の仕方についてのアドバイスに変化が出てきたと思います。例えば、スマートフォン機能を利用した指導など、工夫次第で自分の体への気遣いは様々な方法があると実感しております。かく言う私も体調管理のためにこれらの機能を利用している一人です。大変重宝しております。師走で忙しいからと言って無理をせず、体調管理に気をつけて年末年始をお過ごしください。

周産期センター とひ さとし
土肥 聡



昭和大学
SHOWA UNIVERSITY

昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：笠間 毅 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院
Facebook ページ



Showa University Koto Toyosu Hospital